

事務事業	241701	障害者就労支援事業			
事業	事業区分	実施計画事業	施策体系	241710 障害者の就労の促進	
区分	必要性	非常に高い	効率性	普通	
	方向性（第一次）	改善・効率化	改善、効率化の内容	改良戦略	方向性（第二次）
対象	障害者				

事務事業目的	障害のある方に対し、就職に至るまでの支援、就職後の職場定着支援、職場開拓などを行うことにより、自立した生活と社会参加の促進を図ります。				
事務事業内容	就労を希望する利用者とその家族に対して、面接やマナー指導、就労支援ツール等を使用した能力評価等を行い、最適な就労先に導くとともに、就職後の本人・家族・雇用者からの相談にも対応することで、安心して働ける環境を整備します。				
実施形態	全部委託				
成果指標	利用者の就職者数 令和元年度実績： 243人				
活動指標	（活動指標 1） 就労支援センターの登録者に対する相談及び支援の延べ件数 令和元年度実績： 5454件				

事業コスト計算

事務事業費予算額	14,373,000 円	R1 事務分担表による「事務に係る人数」	0.22 人
事務事業費決算額	14,368,678 円	R2 事務分担表による「事務に係る人数」	0.22 人
予定値		確定値	
直接事業費	14,373,000 円	直接事業費	14,368,678 円
人件費	1,813,329 円	人件費	1,779,009 円
総額	16,186,329 円	総額	16,147,687 円

見直し実績	企業訪問を強化するとともに、新規利用者への対応方法を整理し、利用者の希望達成に向けての相談や就労に向けての補助の充実を図っている				
事業評価	内部要因	（強み）委託法人によるノウハウの蓄積が進み活用されている。			
	外部要因	（ニーズ）登録者・就労者ともに増加し、定着率も維持している。自立するために就労は重要であり、相談に応じながらの支援は欠かせない。			
	必要性	障害者の自立において就労は非常に重要な要素であり、職場開拓から、障害者の職場定義まで支援しているため、障害者就労支援事業の必要性が非常に高い。			
	効率性	障害の種別に応じた就労支援や、就職後の定着支援などは専門性を必要とする業務であるため、ノウハウを持つ事業所への委託による、現行の事業実施体制は効率的である。			
	方向性	障害者の社会参加の促進に必要不可欠な事業であるため、あいサポート運動に参加した事業所を中心に、障害者を受け入れてくれる事業所を新たに開拓し、雇用先を増やしていく。			

令和元年度		事務事業評価表		所属 福祉こども部 障害者福祉課	
事務事業	241706	文化・スポーツ等参加促進事業			
	事業区分	実施計画事業	施策体系	241720 障害者の文化・スポーツ活動などの推進	
区分	必要性	非常に高い	効率性	非常に高い	
	方向性（第一次）	現行どおり	改善、効率化の内容		方向性（第二次）
対象	障害者				
事務事業目的		障害のある方の文化・スポーツ活動への参加により、社会参加の促進を図ります。			
事務事業内容		文化・スポーツ活動などについて広く周知を図り、障害のある方が参加しやすいよう、機会の拡充と環境整備に努めます。			
実施形態		全部委託			
成果指標		年間のべ参加者数 令和元年度実績： 312名（車いすビリヤード教室 168名、水泳教室 144名）			
活動指標		（活動指標 1）文化・スポーツ事業を開催した事業数 令和元年度実績： 31回（車いすビリヤード教室 10回、水泳教室 21回）			
事業コスト計算					
事務事業費予算額		596,000 円		R1 事務分担表による「事務に係る人数」	0.13 人
事務事業費決算額		520,065 円		R2 事務分担表による「事務に係る人数」	0.16 人
予定値		確定値			
直接事業費		596,000 円		直接事業費	520,065 円
人件費		1,071,513 円		人件費	1,293,825 円
総額		1,667,513 円		総額	1,813,890 円
見直し実績					
事務事業評価	内部要因 外部要因	（ニーズ）マスコミによるパラリンピックのPR等の影響もあり、障害特性に合わせた障害者スポーツの種類が増加している。（強み）彩の国ふれあいピック（障害者スポーツ大会）の募集ではHPで積極的に配信している。			
	必要性	社会参加の促進として、障害者の文化・スポーツの参加意義が高い。			
	効率性	彩の国ふれあいピック（障害者スポーツ大会）などの募集をHPなどを活用し、効率的に情報を配信している。あいサポート運動により障害特性を理解したうえで、スポーツ団体との連携した取り組みが可能となり、効率的に実施できる。			
	方向性	事業の周知を図りつつ、安全性を第一に取り組みを進めていく。更に水泳以外の障害者向けスポーツについても、関係団体と調整を図り、教室として実施できるか検討する。			

事務事業	241711	バリアフリー化推進事業			
	事業区分	実施計画事業	施策体系	241730	公共施設などのバリアフリー化とユニバーサルデザインの推進
区分	必要性	非常に高い	効率性	高い	
	方向性（第一次）	改善・効率化	改善、効率化の内容	強化戦略	方向性（第二次）
対象	開発事業者				

事務事業目的	狭山市福祉環境整備要綱や福祉のまちづくり条例などに基づき、誰もが生活しやすいまちづくりをすすめます。また、公共施設などについてはバリアフリー化を推進し、利用しやすい施設づくりなどに努めます。				
事務事業内容	開発事前協議における事前審査の段階で狭山市福祉環境整備要綱に基づき図面を確認し、完了検査で現場に赴き改善点等の確認をします。また、公共施設、地域コミュニティ施設などの新築・改築の際はバリアフリー化を推進します。				
実施形態	直営				
成果指標	指摘なしで完了した件数 令和元年度実績： 5件				
活動指標	（活動指標 1）年間事前協議件数 （活動指標 2）年間完了検査実施件数 令和元年度実績： 年間事前協議件数 9件 ， 年間完了検査実施件数 1 0 件				

事業コスト計算

事務事業費予算額	円	R1 事務分担表による「事務に係る人数」	0.04 人
事務事業費決算額	円	R2 事務分担表による「事務に係る人数」	0.05 人

予定値		確定値	
直接事業費	円	直接事業費	円
人件費	329,696 円	人件費	404,320 円
総額	329,696 円	総額	404,320 円

見直し実績		新規事業者には狭山市福祉環境整備要綱を理解いただくことで、バリアフリー化推進を引き続き行う。ソフト面として、平成30年から「あいサポート運動」を展開しており、令和元年度は、新たに690名のあいサポーターが増え、心のバリアフリー化に向けた取り組みが進めている。			
事務事業評価	内部要因 外部要因	(ニーズ)ハード面その他、障害のある方への接し方など、ソフト面と一体となった総合的な取組が必要である。(強み)あいサポート運動により障害毎の理解を進め、障害の有無に関わらない心のバリアフリー化を図り、ハード面・ソフト面の両面で環境整備を図る。			
	必要性	バリアフリー化やユニバーサルデザインを推進することで障害者が社会参加しやすくなる等、誰もが生活しやすいまちづくりを図る必要性は高い。			
	効率性	新規施設に関しては、狭山市福祉環境整備要綱を整備に基づき、建築段階でバリアフリー化に対応できる等、効率的な対応が図られている。老朽化が進んだ公共施設などは、大規模改修や再編などにより改修時期が決定されることから個別改修は難しい状況である。			
	方向性	新規施設以外についても狭山市公共施設再編計画との調整を図りながら、バリアフリー化を進めていく。また、あいサポート運動を展開し、障害について理解を深め、互いに支え合うことができる心のバリアフリー化を進め、共生社会の実現を目指す。			